

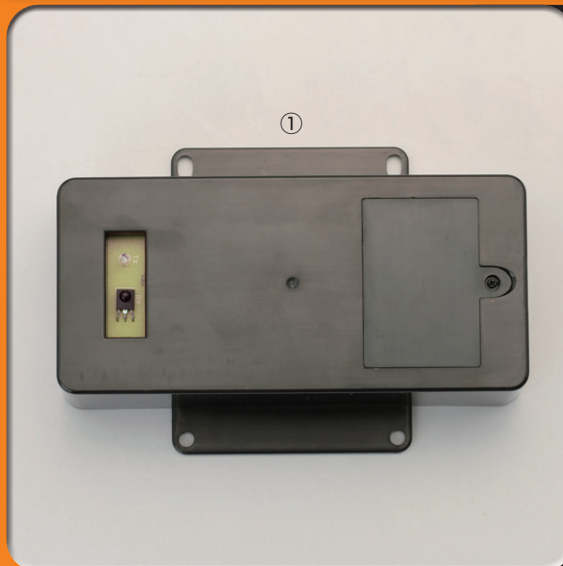
今号の作業

センターボックスを確認する



今号では、62号で組み立てたディスプレイベースに組み込む「センターボックス」を提供する。このパーツには、マシンの電飾ギミックを制御する基板と、マシン側とのワイヤレス通信を実現する赤外線通信基板、そして電池ボックスが内蔵されている。ディスプレイベースに組み込む前に、各部の仕様を確認しておこう。

今号のパーツ



①センターボックス
(制御基板内蔵)×1

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様異なる場合があります。

使用する道具

・+(プラス)ドライバー(1番)

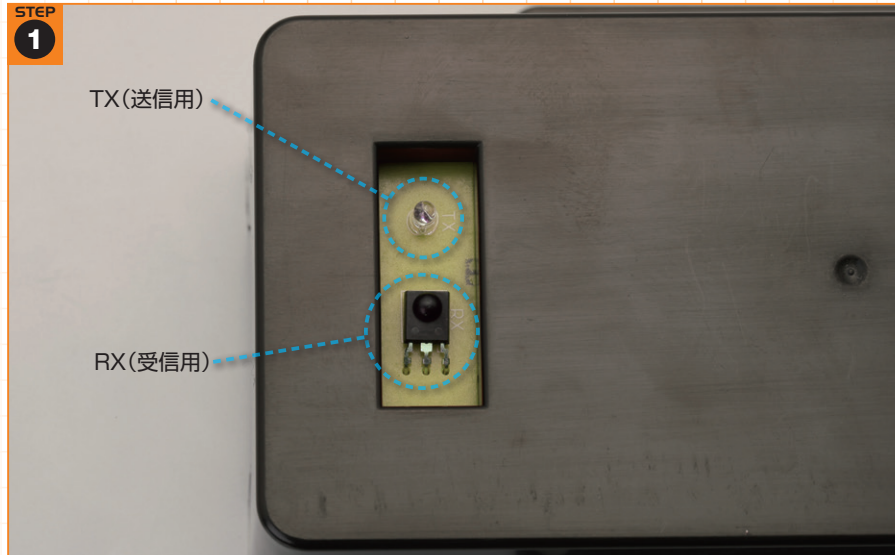
用意するもの

・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)
・油性ペン

STEP
1

TX(送信用)

RX(受信用)



センターボックスの、写真で示した部分を確認しよう。これは赤外線通信を行う基板で、「TX」が送信、「RX」が受信用だ。モデル完成後は、モデル下部のオイルパンに内蔵した基板と相互通信を行い、組み込まれた各ギミックを制御する。

STEP
2



写真の部分にねじ込まれているビスを、1番の+(プラス)ドライバーを左に回して緩める。

STEP
3



つめの先や先端の細いものを使って、写真の部分を引き上げる。



ふたを開けると、内部は電池ボックスになっている。



電池ボックスの内部。使用する電池は、単4型アルカリ乾電池3本だ。内部を確認したら、取り外したふたを閉じ、ドライバーを使ってビスを軽く締めよう。

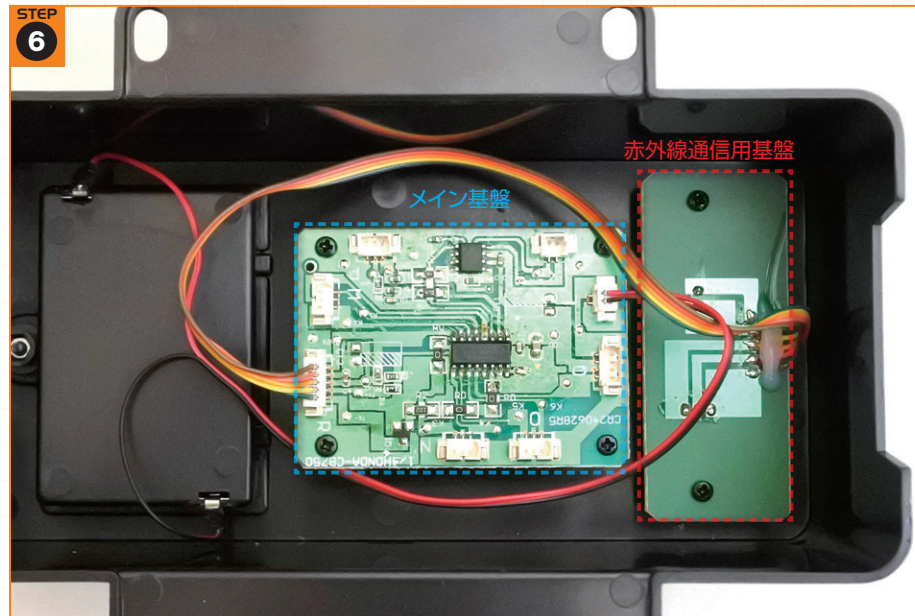


制御基板は非常にデリケートなので、そのまま放置するとトラブルの原因になってしまう。号数を記入したビニール袋に入れて保管しよう。

今号の完成



今号では、組み立て作業は行わない。スイッチやLEDといった端末部分に比べ、電子回路で構成された制御基板は衝撃や湿度などにも弱いので、すべてのパーツがそろった段階で取り付けるからだ。その準備が整うまで、ビニール袋に入れた状態のまま大切に保管しよう。



次にセンターボックスの内側を見てみよう。ここにはギミック制御用基板が組み込まれている。赤の点線で囲んだ緑色の基板は、①で確認した赤外線通信基板。青の点線で囲んだ中央の茶色の基板が、メイン基板となる。なお、メイン基板内のコネクタについては65号で解説する。制御基板の心臓部となる電子回路は、万一のトラブルを回避するため基板の裏側に設けられているので、基板類は取り外さないようにしよう。